



コロナ禍に
負けない。

移りゆく季節愉しむ (一式町で)
関連記事：7ページ

課題解決に向けて本格的に始動

鮎飛び跳ねる
きれいな愛知川へ

●暫定水路設け河床の実験

愛知川清流会では4月10日、紅葉橋の上流に試験的に作られた暫定水路で、研修会が行われました。現在の愛知川は、アーマー化(夕△などにより上流からの土砂の供給が遮断され河床が固くなる現象)により、鮎が棲みにくくなっています。この現状を踏まえ、清流会では、水の浄化に対応できる河床を作ろうと、河川内に新たに水が流れる暫



県の関係者や加藤誠一、周防清二両県議も研修会に参加。県の課題として注目されています。

定水路を設け、鮎が育つ河川づくりの実験が始められました。この暫定水路はバンプという工法で、河床に傾斜を付けることで水の流れにうねりを加えることができ、鮎などの生息に効果があると言われています。

この日は、清流会のメンバーをはじめ、県や市の関係者約30人が参加し、滋賀県琵琶湖環境科学センターの主任研究員の水野敏明さんから、暫定水路設置後、約1か月経った河床の状況や効果などについて説明を受けた後、鮎が好物な珪藻類が付着するように大きな石を投げ入れながら、「鮎の生育を見るのが楽しみ」と話されていました。

●全国のモデル組織に指定

愛知川清流会では、これまで河川や堤防の清掃、草木の伐採をはじめ、水生生物調査や透視度調査、川魚の料理教室、子どもたちへの鮎の放流体験、岩魚つかみ体験の実施など、活動が続けられてきました。また、現在の愛知川の課題とし



て、①瀬切れ、②濁水の長期化、③河床の改善の3点を挙げ、これらの課題解決のための組織立ち上げを県に呼びかけ、昨年、14の関係機関で構成する「愛知川内水面漁業振興協議会」が設立されました。かつてのように、鮎が飛び跳ねる清流と環境を取り戻そうとする様々な活動は、全国のモデル組織として指定を受けるなど、高く評価されています。



紅葉橋上流に設けられた暫定水路。試験データを正確にとるために、ちょうど100mの水路が設けられました。



透視度調査
月に1回、ダムの上流から御河辺橋までの8箇所透視度調査を行い、水がどの様に変化しているかを記録されています。

編・集・後・記

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るって、収束の目途が立っていません。世界中で感染への恐れと先行きの不安が交錯し、様々な情報が飛び交っています。うわさや憶測に惑わされることなく、正しい情報を基に正しい行動をとることが大切です。▽滋賀県でも感染拡大を受けて知事が遊興施設などに休業要請を出しました。要請があった以外の業種でも、飲食店や宿泊業、運輸業など様々な業種に大きな影響を及ぼしています。▽永源寺地区は、市内でも小さな農山村地域ですが、歴史や文化、自然が豊富で、それに伴って観光や商業などの経済活動が活発に行われてきました。近年は、人口減少や他市町の大型商業施設の進出、インターネット通販の拡大などで、かつての商店の賑わいは陰りを見せています。▽更なるコロナの影響が心配されますが、私たちにできることは、三密対策(密閉・密集・密接)で感染拡大を防ぐこと、地元で買い物をしたり、昼食や夕食にお弁当を取ってみたりして地元を盛り上げることだと思います。▽地元のおいしいものを食べ、たまには体を動かして免疫力を高め、みんなでこの難局を乗り越えましょう。

新しい、まちのお巡りさん

今年度から、政所駐在所に配属になりました高柳知洋（たかやなぎ ともひろ）です。

今年で警察官は7年目となり、前任は湖北の木之本署で1年間駐在所、3年間交番勤務をしていました。

東近江署での勤務は初めてで、分からないことも多く、仕事に追われる傍ら、地理や地名を覚える日々を送っています。一生懸命に努めていきますので、よろしくお願い致します。



高柳知洋巡査長

コロナ対策万全で入学式 臨時休校、3か月間も続く



新型コロナウイルスの感染拡大を受け、臨時休校が続く中、小中学校の入学式が4月9日、各学校で行われました。入学式には、在校生や来賓の出席を取りやめ、新入生と保護者、教員のみでの出席で行われ、式典時間も短縮されるなど、感染予防の対策がとられ行われました。

今年入学した新1年生は、小学生31人（山上小22人、市原小9人）、中学生38人です。

小中学校では、3月3日から春休みを含む4月8日まで、さらに感染拡大を受け、4月9日から5月31日まで、臨時休校となりました。

子どもの成長、願い続けて20年 青空にたなびくこいのぼり 一式町まちづくり委員らが飾る

一式町のかみかど公園には、毎年4月から5月にかけて、こいのぼりが元気よく泳いでいます。

かつて取り組まれた生活改善の一環で、各家庭にあるこいのぼりを集められ、一斉に飾られたのが始まりと言います。

地元の年配の方にお尋ねしますと、「営農倉庫が平成10年に建てられ、確か、その翌年から始まったと記憶しています。早くも20年たったんですね」と、感慨深く話してくださいました。

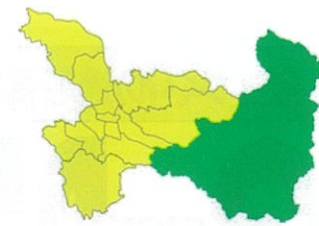
飾り付けは毎年、春のお祭りの日に、自治会役員と10名のまちづくり委員により行われています。

元自治会長は、「雨風により破れたこいのぼりは繕いながら使っています。もう、やめようか。そんな声があがった年もありましたが、今も続いている嬉しいです。今年は、こんなときだからこそ揚げようってなったのではないのでしょうか。ぜひ、紹介してください」と、話されました。

子どもの健やかな成長を願って飾られるこいのぼり。春風に乗って泳ぐ風景は、見ているだけで自然と笑顔になれる、心地いいものですね。



まちの話題



環境にやさしいバイオトイレ 君ヶ畑の天狗堂登山口に完成



鈴鹿10座のひとつ、天狗堂の登山口である君ヶ畑町に、バイオトイレが完成しました。

天狗堂は、鈴鹿山脈のほぼ中央に位置する山で、富士山のように独立してそびえ、眺めも素晴らしいことから人気のある登山コースのひとつ。登山道や駐車場の整備に続いて整備されました。

このトイレは、微生物入りの700リットルの水をトイレ内に常に循環させ、外部に水を排出しないため環境にも優しく、排泄物はバクテリアで分解して貯留し年一回程度の汲み取りで済むといえます。設置費は約240万円。建物本体には、滋賀県産の木材が使用されています。

エイゲンジザクラ、本山に再び ゆめ咲良会が植樹



3月初旬、今年も本山永源寺の境内にエイゲンジザクラが植樹されました。

これはエイゲンジザクラを広く知ってもらおうと活動する「ゆめ咲良会」（野田清久代表）が中心となって取り組んでいるものです。

この日は、2メートル余りの大木を昨年と同様に禅堂の門を対面で飾るように植樹し、住職による読経のもと、元気に育つように祈願されました。

4月中旬には、大輪のきれいなエイゲンジザクラが参拝者の目を楽しませていました。秋の紅葉、春の桜と観光スポットがまた増えました。

市民ギャラリーとしてリニューアル コミセンに「森のアトリエ」オープン



永源寺コミュニティセンターの1階展示室がリニューアルされ、このほど「森のアトリエ」としてオープンされました。「森のアトリエ」は、地域の皆さんの作品を展示できるように、展示室中央にあった円形の展示棚を取り払い、照明を増設。明るく開放的な空間が確保されています。

展示第1弾は、永源寺相谷町の今若茂さんの竹細工の作品と永源寺の美しい四季の写真が飾られました。展示をしていただける方や推薦など、コミュニティセンターへお声掛けください。



道路横断、気をつけて！ 青野町で高齢者の交通安全教育



2月15日、青野町では交通安全指導員による高齢者交通安全教育を行いました。国道421号は石樽トンネルの開通後、大幅に交通量が増え道路を横断することが困難な状況となりました。高齢に伴う運動機能低下により道路横断時のリスクが増加することに着目し、滋賀県交通戦略課から道路横断時の危険を主題にしたビデオ教材を借りて行いました。

参加された方は、道路横断時の怖さを再認識され、高齢者の交通事故防止を誓われました。交通安全指導員は、「県庁だけでなく県警、交通安全協会からも交通安全ビデオを借りることができるので、交通安全啓蒙に役立つと思う。」と提案されていました。（青野町から情報提供）



おかげさまで 4月 新店舗オープン！コロナをのり超え、楽しい旅へ！
エイトク観光バス・エイトク旅行企画 永源寺タクシー株式会社
TEL 0748-27-1151

エイトク

大きな声で最後の園の歌うたったよ!!



(市原幼稚園)



卒園児から藤田教育長へ園旗返納
(永源寺幼稚園)



(もみじ保育園)



マスクを付けて式に参加する保護者と園児



思い出がいっぱい詰まった閉園記念誌

永源寺・市原幼稚園 56年のあゆみ刻んで幕

もみじ保育園は40年で閉園

幼稚園と保育園を統合した「永源寺もみじ幼稚園」の開園に伴い、3月31日で閉園になった永源寺・市原の二つの幼稚園の閉園式が3月17日に、また、もみじ保育園の閉園式が3月23日に行われました。

又感染拡大の影響で小椋市長ほか関係者のみの少人数で行われました。幼稚園は、昭和38年の開園以来56年間、もみじ保育園は40年の長きにわたり、地域の皆さんの協力とともに歩んできた歴史に幕を閉じました。

●もみじ保育園

昭和55年4月、町立もみじ保育園創立。1歳児から5歳児の保育を実施。昭和60年から0歳児保育を開始。平成23年、未満児棟増設。創立から40年で閉園。

●市原幼稚園

昭和38年5月、市原小学校舎の一部を利用して開園。翌39年4月から町立市原幼稚園となる。現在の園舎は平成2年に完成。平成15年から3歳児保育開始。

●永源寺幼稚園

昭和38年9月、町立家政女学校の校舎を利用して開園。翌39年4月から町立永源寺幼稚園となる。現在の園舎は平成元年に完成。平成19年から3歳児保育開始。

クローズアップ☆

地域おこし協力隊に委嘱され、3月から君ヶ畑町で奥さんとともに新しい生活がスタート。林業の担い手として、山を守る思いを語ってくれました。

地域おこし協力隊
いえだ しゅんぺい
家田 俊平さん



永源寺森林組合で作業に携わりながら研修中。「今、仕事がとても楽しい」と話す家田俊平さんと奥さんの真末さん

◆きっかけは？
放置人工林を何とかしたい
日本は森林資源が豊富な国ですが、戦後の拡大造林の後、木材価格の低迷などにより放置された森林がたくさんあります。わたしは、この放置された人工林を何とかしたいと思い、これまで人工林を伐採して広葉樹を植える自然保護活動に携わっていました。
山を守っていくためには、自分自身が林業従事者となり技術を身につけ、行政や林業関係者、地元の方々の考え方を聞き知識を深める必要があると考え、地域おこし協力隊に応募しました。
◆東近江市を選んだのは？
東近江市は、とてもどかで温かい雰囲気があり、自然が豊かで森林に關心の高い方が多いと感じました。琵琶湖のある滋賀県は、環境教育が進んでいると思いますが、東近江市であれば山を豊かにしたいという自分の思いが

伝わるのではないかと感じました。移住して感じることは、皆さんとても親切です。地域での暮らしを楽しんでいる方が多く、人間関係が広がっていくことがとても楽しいです。
◆山を守るには、
林業は山を守る仕事
山を守る活動は、わたしたち人間の生活だけではなく、生き物の命を守る活動です。そして林業は、木材生産だけではなく、適正な森林管理によって健全な山を保つこともできます。人工林を放置することは山の荒廃に繋がります。土砂災害を減らすことも林業が担っていると思います。このように、林業は山の状態に大きな影響を与えます。だからこそ、林業は山を守る仕事だと思っています。
◆抱負は？
未来に豊かな山を残したい
林業形態の中で最も自然に優しいのが、小規模経営の自伐型の林業です。間伐を何度も行い良い木を育てていく方法です。
奥永源寺で、この自伐型の林業に挑戦し、保水力の高い豊かな森林を作っていきたいです。管理ができなくなっている人工林を蘇らせ、どうしても施業ができない山は広葉樹林化していく、そんな山に適した施業を実施していきたい、未来に豊かな山を残していきたいと思っています。

(有) 岡本こんにやく本舗

手造りこんにやくの店
畑で育てたこんにやくから造る本物の味
東近江市永源寺高野町 328
Tel 0748-27-0129 Fax 0748-27-2027 営業時間 9:00 ~ 17:00

開園にあたって

東近江市長 小椋正清

このたびの施設統合と移転新築に際し、地元関係の皆様にお力添えを賜り無事完成できましたことに、心から敬意と感謝を申し上げます。地域の皆様には、慣れ親しんでこられた幼稚園・保育園が開園になる寂しさや新施設への通園などの面で不安もある中、より良い教育、保育環境のためにとご判断をいただき、今日の日を迎えることができました。

今回の建築に当たり、我が国の森林を適正に管理してきた木地師文化の大きな価値に思いをいたし、木地師が育ててきた木の文化、森の文化を後世に引き継ぐ契機となることを期待し、東近江市産材の直交集成材 CLT を活用した木造建築物といたしました。

外観は、鈴鹿山脈の山並みをイメージしています。内装は毎日利用するエントランスホールや廊下、大遊戯室を重点的に木質化することで、木の雰囲気にもまれ、木を体で感じながら遊べるような工夫をしています。

子どもは社会の希望、未来をつくる力です。次代の社会を担う子どもが夢と希望を持ち、健やかに成長していけるよう、今後も良好な環境の整備に努めていきます。

永源寺もみじ幼稚園が地域の皆さまから末永く愛され信頼される施設として発展いたしますようご支援ご協力をお願いいたします。(竣工式式辞から抜粋・要約)



大遊戯室(上) エントランスホール(左下) 廊下(右下)

県内幼児施設初のCLT工法

CLTとは、クロス・ラミネーティド・ティンバーの略称で、欧州で開発された工法。板の層を互いに直交するように接着した厚型のパネルで、日本では「直交集成材」と呼ばれています。

断熱性や耐震性に優れており、柱の代わりにするため、空間を広くとることができます。

森林資源が豊富な国産材の需要拡大のひとつとして期待されています。

県内の公立認定こども園では、初めて採用されました。



永源寺もみじ幼稚園開園

ぬくもりを感じる木造園舎



外観は、鈴鹿山脈のさまざまな姿かたちの山並みをモチーフに、大遊戯室、エントランスホール、調理室の3つの起伏の大きな屋根が特徴。



地元関係者、工事関係者ら約80人が出席。正面玄関前のテープカットに引き続き、遊戯室で式典が行われました。式典では、園名の公募で採用された7人への記念品贈呈のあと、4・5歳児が新しくなった園舎へのお礼の歌を元気に披露されました。

総事業費は約6億9千万円。建物は木造平屋建てで、延べ床面積約1680平方メートル。保育室8部屋、遊戯室、プレイルーム、絵本コーナー、職員室、調理室のほか、プール、ひろば、未満児の庭などを備えます。使用した木材は480立方メートルで、永源寺産の木材が約5割使われています。



園児と一緒にテープカット

幼稚園と保育園を統合した認定こども園「永源寺もみじ幼稚園」が完成し、4月7日に開園しました。先進的なCLT工法を採用した木造の園舎で、地元の木材をふんだんに活用し、木のぬくもりと自然を感じることが出来ます。

**幼稚園と保育園を統合
認定こども園として開園**

永源寺もみじ幼稚園は、永源寺幼稚園と市原幼稚園、もみじ保育園が統合した認定こども園です。幼稚園の園児の減少と、保育園の施設の老朽化に対応するため新築整備されました。

4月4日に行われた竣工式には、小椋正清市長や小寺裕雄衆議院議員をはじめ、地元選出の県議会議員、市議会議員、行政や園、

ご入園おめでとう

野田克子園長

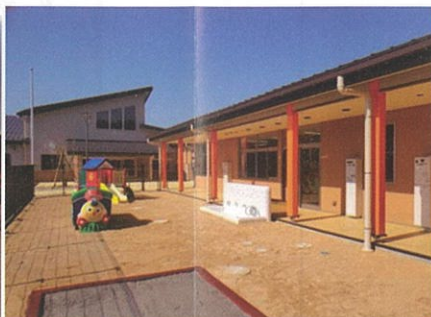
新しく永源寺もみじ幼稚園の仲間になった皆さん、ご入園おめでとうございます。保護者の皆様も、お子様のご入園、心よりお祝いを申し上げます。

永源寺もみじ幼稚園は、先日4日に竣工しました。皆さんと同じくピカピカの幼稚園です。幼稚園は、遊びから学ぶところ、安心して生活できる場所、そして、ともに育つ場所です。木のぬくもりに溢れた園舎で、たくさんの友だちや保育者と泣いたり笑ったり、いろいろな体験や経験を、すくすくのびのび成長されることを願っています。周りには、豊かな自然、そして図書館や広いグラウンド、子どもが育つ環境としては間違いなく花マルです。

今、感染症に対する恐怖を感じながら日常を送っており、保護者の皆様も大事なお子様が集団に入って生活を送ることに対する戸惑いや怖さを感じておられることでしょう。わたしたち職員は、衛生面での配慮や体調管理を丁寧に行う中で、予防に努めたいと考えています。ご心配なことなど、何でも職員にお声掛けください。子どもたちの心も体も健康な育ちをご家庭と園、そして地域の方にもご協力いただき、一緒に見守りたいと考えています。ご入園おめでとうございます。明日から元気に登園して下さることをおまちしています。(入学式式辞から抜粋・要約)



広々とした園庭



のびのび遊べる未満児の庭



2歳児保育室



光を取り入れた保育室

園児数	
0歳児	4人
1歳児	15人
2歳児	15人
3歳児	31人
4歳児	29人
5歳児	38人
合計	132人
定員	135名